

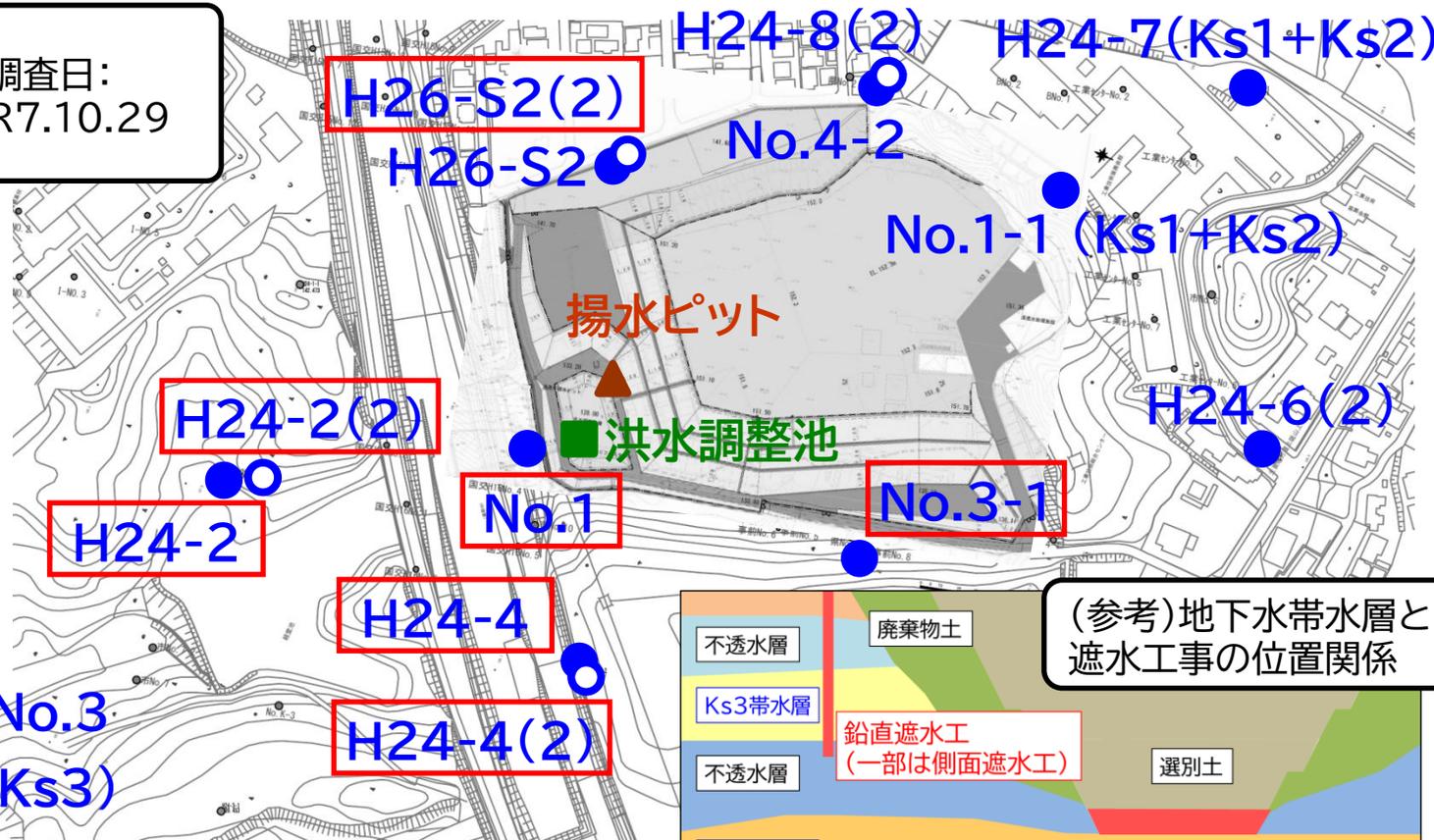
令和7年度第3回
モニタリング調査結果について

令和8年(2026年)2月10日

調査地点

- ▲ 浸透水:1地点
- Ks3:5地点※
- Ks2:11地点※
- 表流水:1地点

調査日:
R7.10.29



※ K-1はKs3層とKs2層の地下水が合流しているため、両方に計上している。

□ :有効性の確認における地下水評価地点
(H26-S2(2)は水位変動状況が遮水壁内部と関連性がないことを併せて確認)



(参考)地下水帯水層と遮水工事の位置関係

◆ 次ページ以降では、右表の項目について、今回の調査結果の表および平成24年度以降(洪水調整池は調査開始以降)のグラフで結果を表示した。(ただし、表流水の調査結果の表は調査全項目。)

◆ 定量下限値未満の場合、定量下限値としてグラフに表示した。

浸透水	①二次対策工事着手(H25.12)以降に地下水で環境基準を超過したことがある項目(ひ素、ほう素、カドミウム、1,4-ジメチル) ②二次対策工事完了(R3.2)以降に浸透水で環境基準等を超過したことがある項目(カドミウム) ③電気伝導度
地下水	①浸透水①と同じ項目(ひ素、ほう素、カドミウム、1,4-ジメチル) ②電気伝導度
洪水調整池	①洪水調整池で環境基準を超過したことがある項目(pH、BOD、ひ素) ②電気伝導度

浸透水

位置図・グラフ凡例



▲ 揚水ピット

表の凡例:

基準超過

基準以下検出

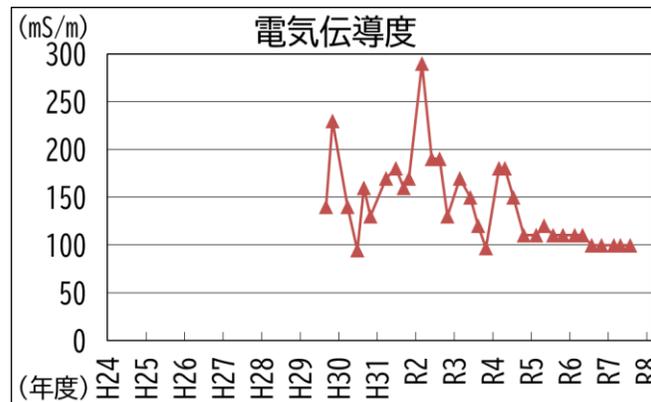
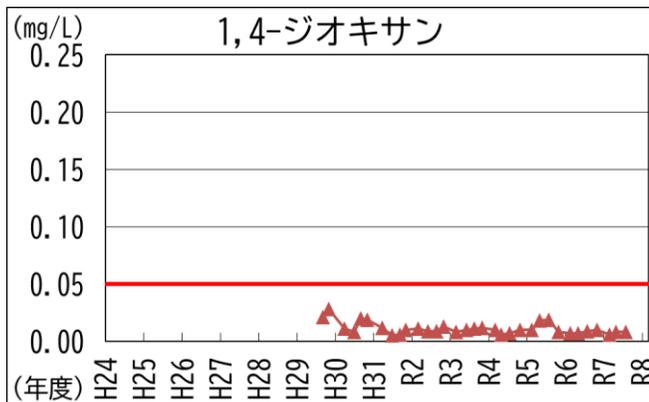
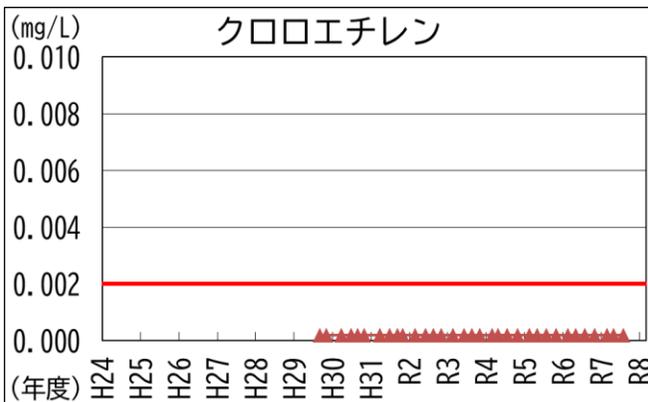
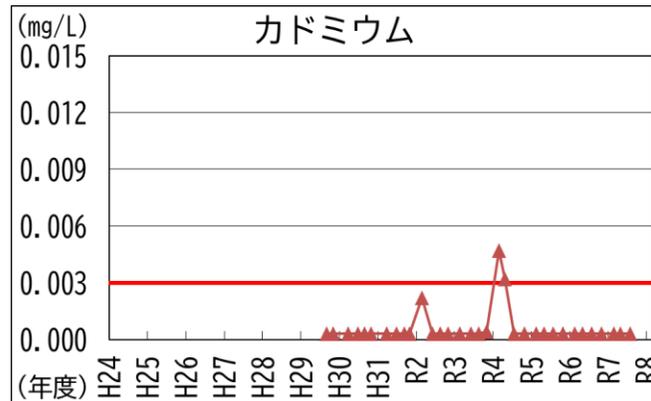
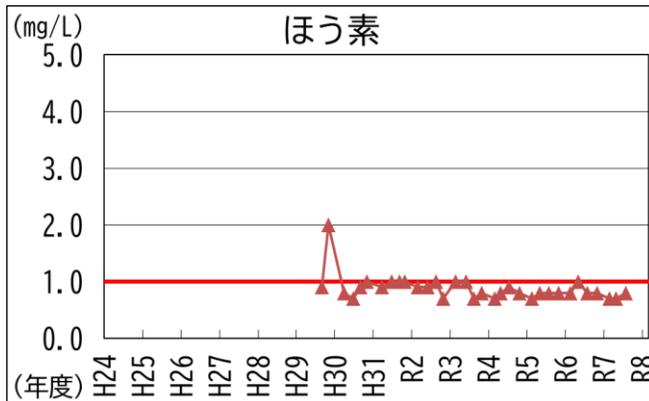
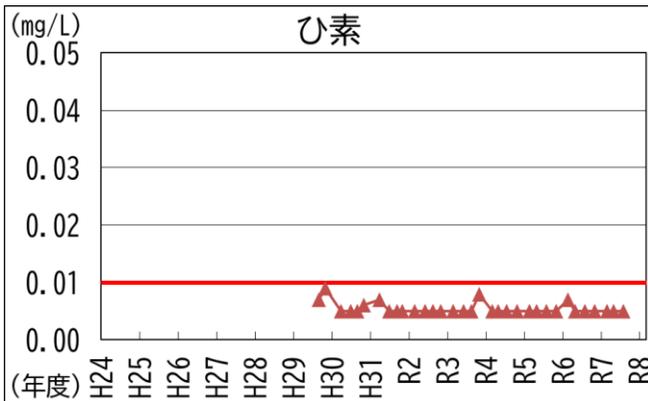
不検出

	揚水ピット	安定型処分場の浸透水の基準	環境基準
ひ素	mg/L <0.005	0.01	0.01
ほう素	mg/L 0.8	-	1
クロロエチレン	mg/L <0.0002	0.002	0.002
1,4-ジオキサン	mg/L 0.008	0.05	0.05
カドミウム	mg/L <0.0003	0.003	0.003
電気伝導度	mS/m 100	-	-

※ 平成24年度1回目の調査で浸透水調査地点で基準超過した項目には下線を引いている。

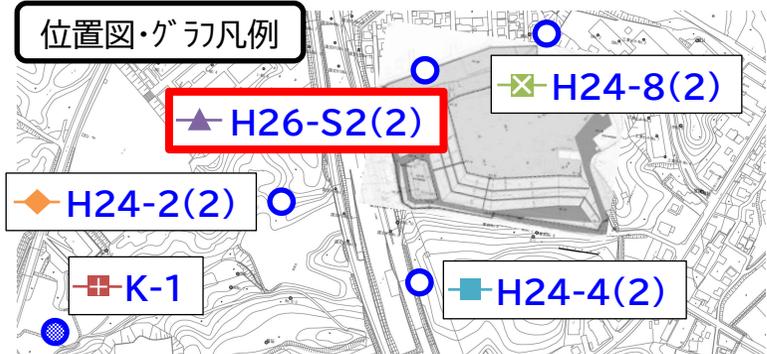
【結果】

- ・ 基準超過なし。



地下水(Ks3層)

位置図・グラフ凡例



表の凡例:

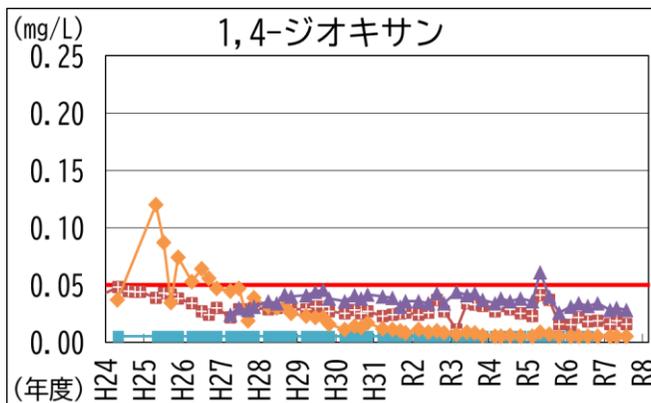
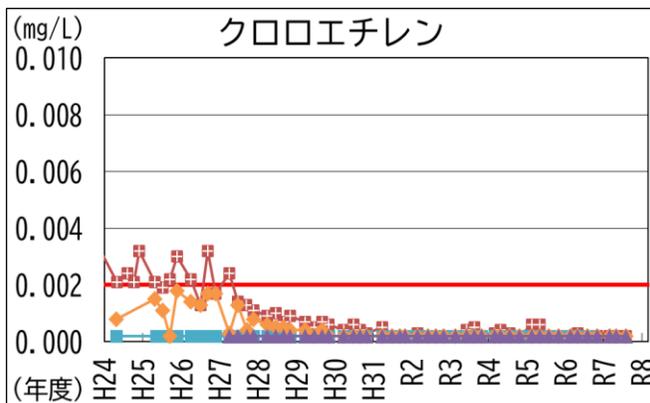
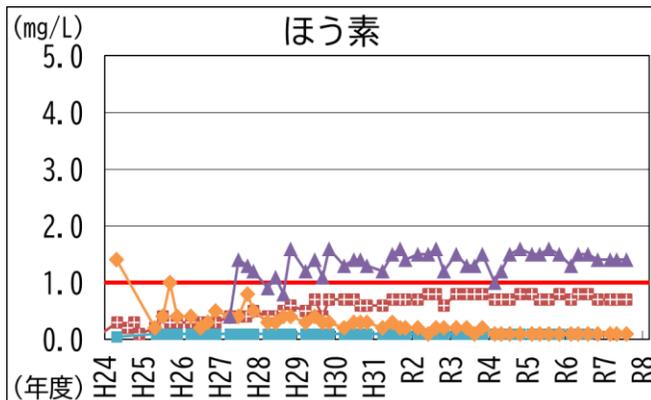
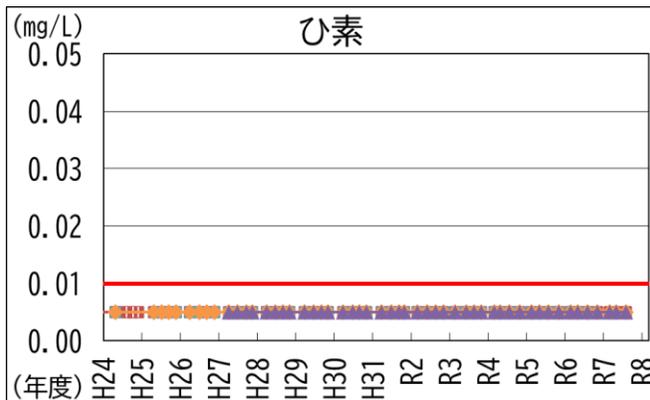
基準超過

基準以下検出

不検出

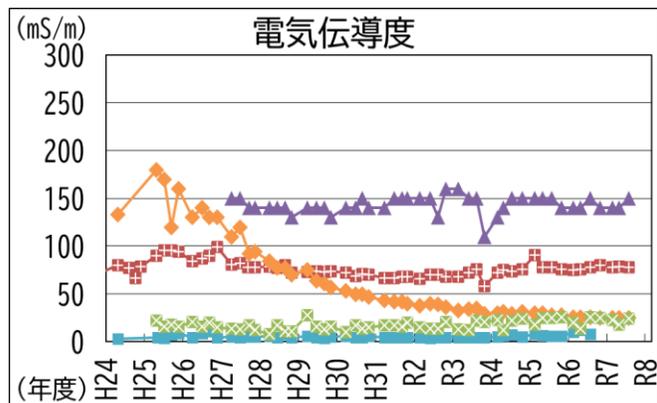
		H24-8(2)	H26-S2(2)	H24-2(2)	H24-4(2)	K-1	環境基準
ひ素	mg/L	-	<0.005	<0.005	-	<0.005	0.01
ほう素	mg/L	-	1.4	<0.1	-	0.7	1
クロロエチレン	mg/L	-	<0.0002	<0.0002	-	<0.0002	0.002
1,4-ジオキサ	mg/L	-	0.028	<0.005	-	0.016	0.05
電気伝導度	mS/m	24	150	25	-	78	-

※ 平成24年度1回目の調査で基準超過した項目には下線を引いている。



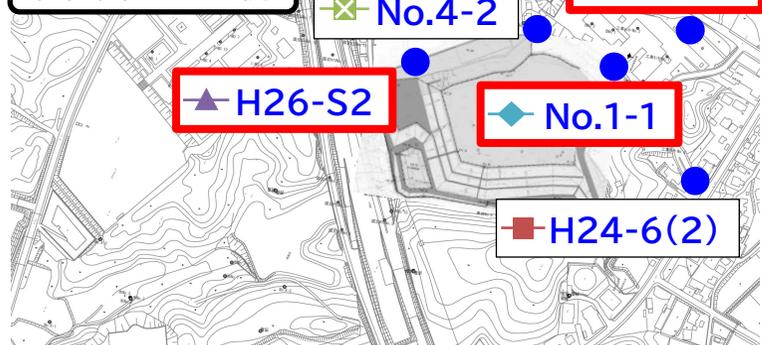
【結果】

- ・ H26-S2(2)の1地点でほう素が環境基準を超過。(他の項目を含め横ばい傾向で大きな変動はない。)
- ・ イオンの主成分分析等の結果から、鉛直遮水工により付近の地下水の行き場が失われ、過去の浸透水の影響によるものと考えられるが、引き続き注視。



地下水(Ks2層①)

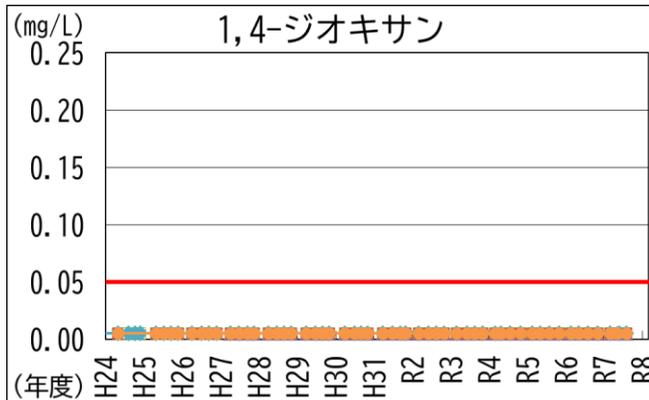
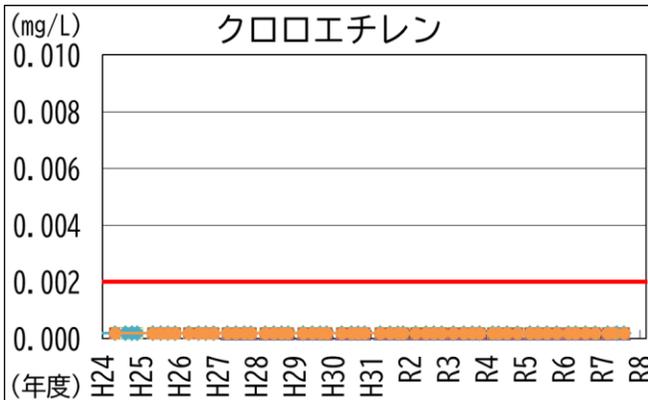
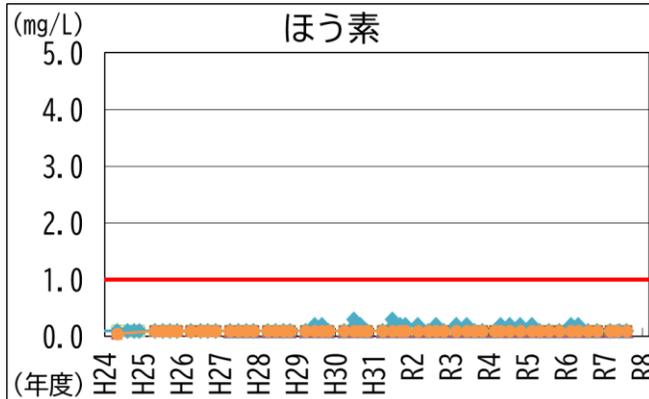
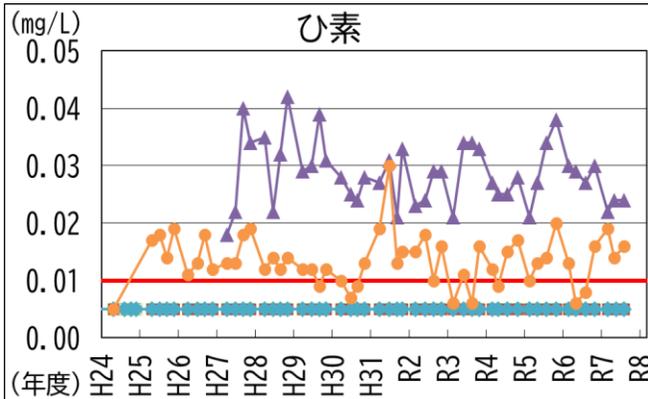
位置図・グラフ凡例



表の凡例: 基準超過 基準以下検出 不検出

		H24-7	No. 1-1	H24-6(2)	No. 4-2	H26-S2	環境基準
ひ素	mg/L	0.016	<0.005	<0.005	<0.005	0.024	0.01
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1
クロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05
電気伝導度	mS/m	7.4	15	7.4	15	23	-

※ 平成24年度1回目の調査で基準超過した項目には下線を引いている。

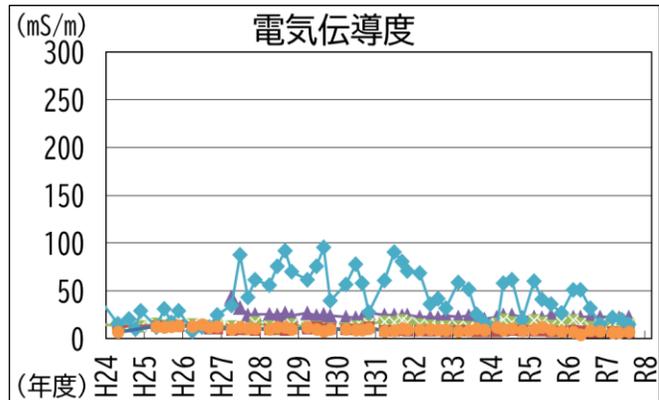


【採水状況】

- No.1-1で水質自動測定器が井戸内で動かさなくなっており、採水深度を機器の少し上とした。

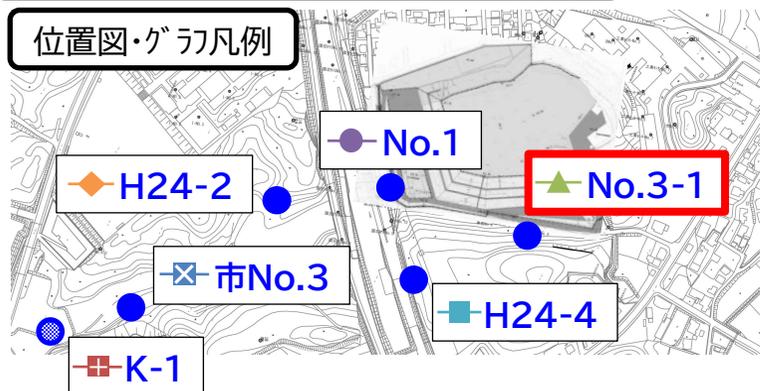
【結果】

- H24-7、H26-S2でひ素が環境基準を超過(自然由来と推定)。
- No.1-1で鉛が環境基準を超過(後述)。



地下水(Ks2層②)

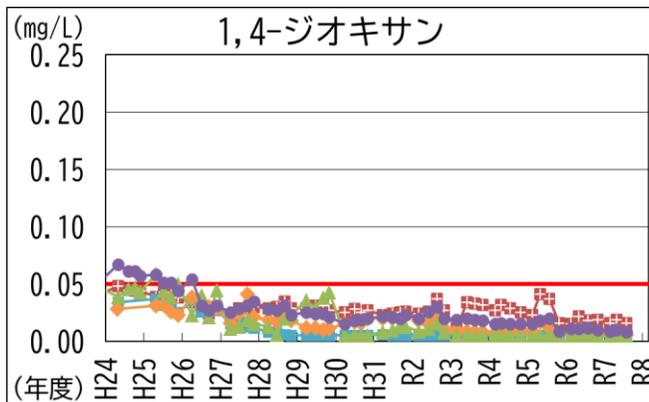
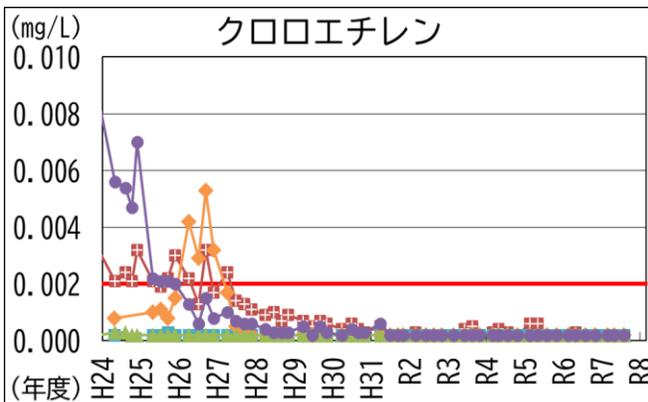
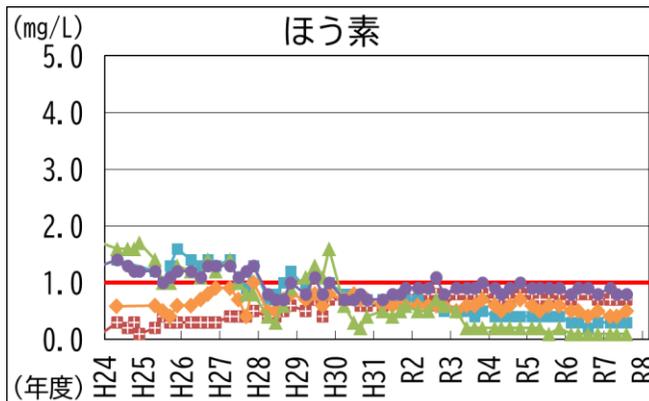
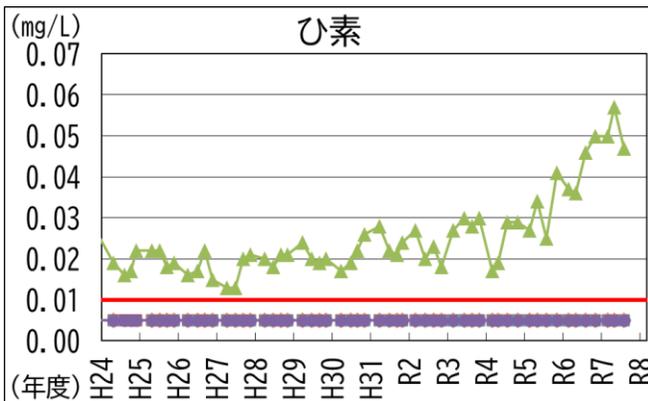
位置図・グラフ凡例



表の凡例: 基準超過 基準以下検出 不検出

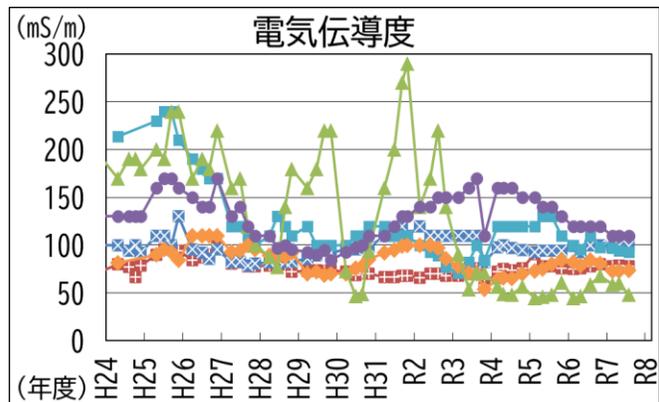
		No. 1	No. 3-1	H24-2	H24-4	市No. 3	K-1	環境基準
ひ素	mg/L	<0.005	<u>0.047</u>	<0.005	<0.005	-	<0.005	0.01
ほう素	mg/L	0.8	0.1	0.5	0.3	-	0.7	1
クロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	-	<0.0002	0.002
1,4-ジオキサン	mg/L	0.008	<0.005	0.006	<0.005	-	0.016	0.05
電気伝導度	mS/m	110	48	74	93	99	78	-

※ 平成24年度1回目の調査で基準超過した項目には下線を引いている。



【結果】

- No.3-1の1地点でひ素が環境基準を超過。
- 電気伝導度や他の項目に大きな変化は見られず、対策工事等による影響や新たな汚染ではないと考えられる。
- 過去に実施した詳細調査の結果等から、超過原因は自然由来と推定。



表流水(洪水調整池)

位置図・グラフ凡例

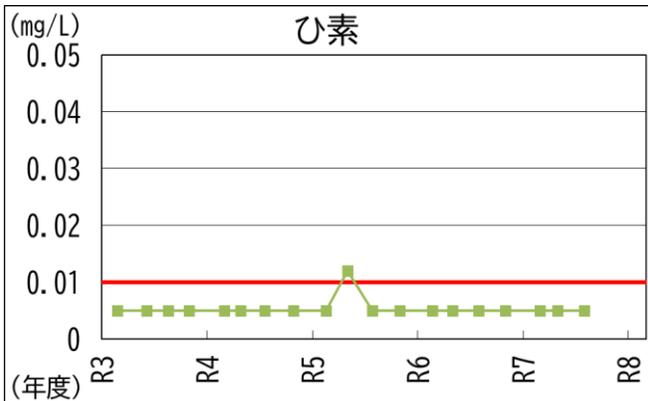
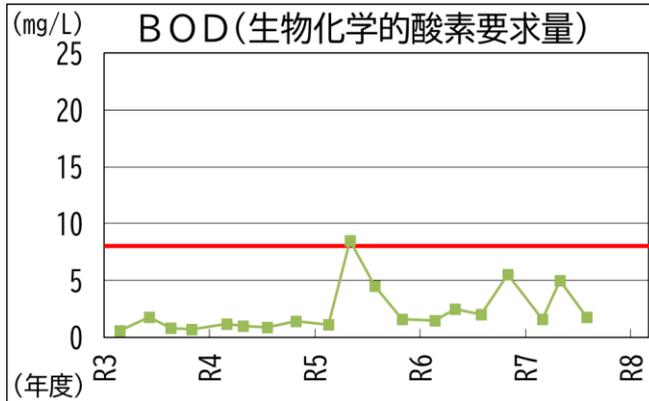
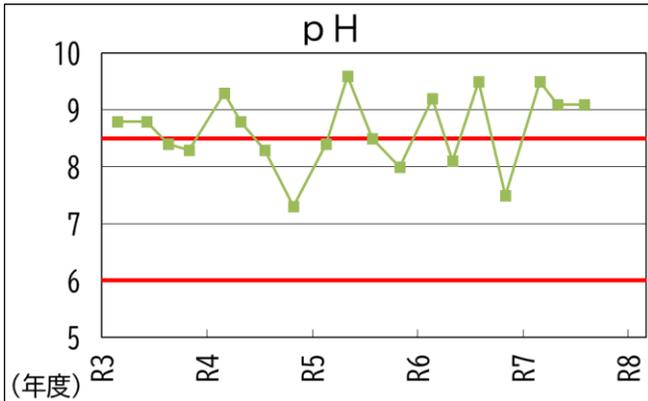


表の凡例: 基準超過

基準以下検出 不検出

【結果】

- ・ pHが環境基準を超過。
- ・ 電気伝導度に大きな変化はなく、調整池に藻が発生していることから、廃棄物による影響ではなく光合成による影響と考えられる。



		洪水調整池	環境基準
pH	-	9.1	6.0~8.5
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/L	1.8	8
COD(化学的酸素要求量)	mg/L	7.1	※ (6)
SS(浮遊物質)	mg/L	<1.0	100
電気伝導度	mS/m	13	※ (30)
カドミウム	mg/L	<0.0003	0.003
ひ素	mg/L	<0.005	0.01
ふっ素	mg/L	0.08	0.8
ほう素	mg/L	<0.1	1
鉛	mg/L	<0.005	0.01
総水銀	mg/L	<0.0005	0.0005
PCB	mg/L	不検出	不検出
トリクロロフルン	mg/L	<0.001	0.01
テトラクロロフルン	mg/L	<0.0005	0.01
1,1-ジクロロフルン	mg/L	<0.002	0.1
1,2-ジクロロフルン	mg/L	<0.004	-
シス-1,2-ジクロロフルン	mg/L	<0.002	0.04
トランス-1,2-ジクロロフルン	mg/L	<0.002	-
ベンゼン	mg/L	<0.001	0.01
クロロフルン	mg/L	<0.0002	-
1,4-ジオキサ	mg/L	<0.005	0.05
ダイオキシン類	ppb/L	0.058	1
鉄	mg/L	0.06	-
マンガン	mg/L	<0.01	-
溶解性鉄	mg/L	0.06	-
溶解性マンガン	mg/L	<0.01	-
全窒素	mg/L	0.32	※ (1)
全りん	mg/L	<0.05	-
塩化物イオン	mg/L	1.2	-

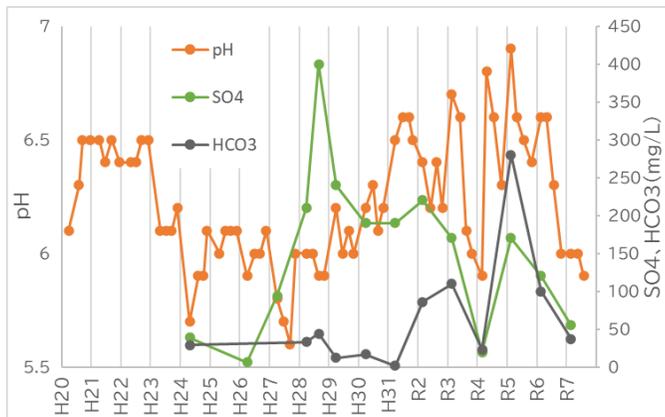
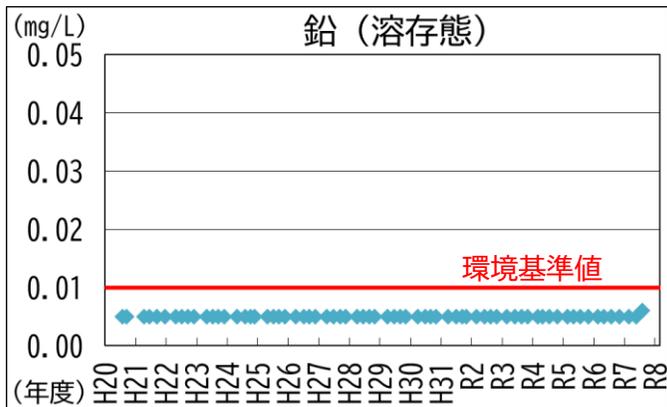
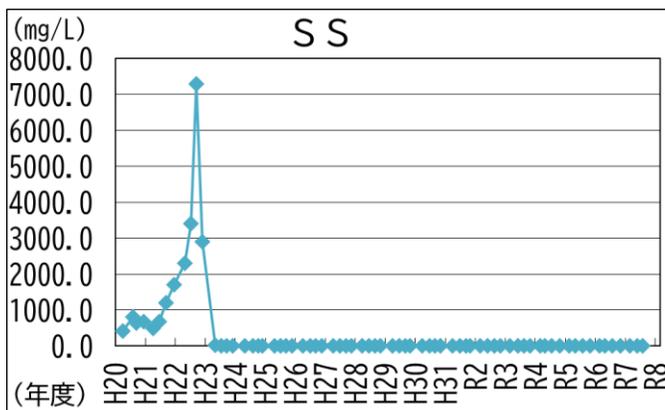
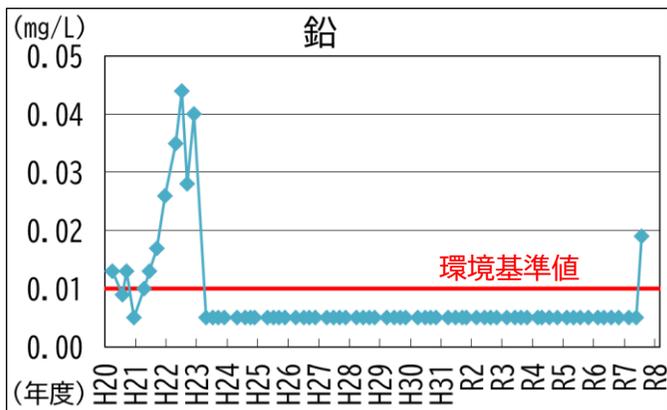
※ 環境基準にない項目については参考に農業用水基準(要望値)を表示。

※ PCBの環境基準は「検出されないこと。」

(不検出)であり、定量下限値未満(<0.0005mg/L)となることである。調査結果が定量下限値未満の場合「不検出」と表記した。

No.1-1の鉛の環境基準超過について

- 鉛の由来として、主に地質、または孔内に詰まっている重りの可能性が考えられる。
- 鉛の形態は大半が粒子状であり、地下水中に鉛イオンとして溶け込んでいる量は多くないと思われるが、現在は年1回の各イオン種の分析頻度を年4回に増やすなど地下水質をさらに詳細に把握するとともに、今後の対応を検討する。



孔内に詰まっている重り(下部)の様子。
その下には詰まっている水質計が見える。

No.1-1の各種水質データおよび
孔内に詰まっている重りの様子